

## 「主のみこころを悟りなさい」エペソ5：15－17 堀田修一 2020・7・19

I 「ですから（キリストがあなたを照らされるのですから：14）、自分がどのように歩んでいるか（主のみこころに適った歩みをしているか）、あなたがたは細かく注意を払いなさい」：15

II 「知恵（主のみこころを判断、識別する知恵）のない者としてではなく、知恵（主のみこころを判断する知恵）のある者として、機会を十分に活かみなさい（神が与えられる機会を十分に活かして用いることが出来ますように＝①神との交わりに②隣人を愛する事（相手の気持ちを聴く思いやり、辛い気持ちに寄り添う、暖かさ、親切さ、心の広さ※証し）に③人々に主の救いを伝える事に。悪い時代だからです」：15－16。

「悪い時代」＝主のみこころ（主に喜ばれること：10）ではなく、自分の悪い欲望の為に時、時間、機会を使いながら生きている時代。私達はどうでしょう？父なる神、そして子なる神イエスは、そんな悪に生きる私達を愛して、救いの御手を差し伸べられた。「キリストは、今の悪の時代から私達を救い出すために、私たちの罪のためにご自身を与えてくださいました。私たちの父である神のみこころにしたがったのです」（ガラテヤ1：4）。私たちの心は、罪、悪の欲望のままに生きたいという心（「自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い」（エペソ2：3））であり、それに比べ、神のみこころは、私達を救いたいという心だったのです。何という違い！何という恵み！神に救われていなければ、私達は、自分の罪の為に、とくに滅んでいる。神の救いを感謝したい。

III 「ですから、愚か（原語：分別のない）にならないで」：17。神の時、機会、主のみこころを分別しない愚か者にならないように祈りましょう。祈っていると、「待つ時か」「踏み出す時か」示して下さい。

IV 「（原語：アツラ「むしろ」）主のみこころが何であることを悟りなさい」：17

1. 「主」＝私達を愛して私達の為に自分を捨て（ガラテヤ2：20）、十字架で私達のすべての罪の刑罰を受け償いをし、私達を永遠の滅びから買い戻して（贖って）下さった救い主、神。その愛と救いを受け、心から感謝し、私達が自分を捨て自分の十字架を負って、信頼してついて行ける素晴らしいお方！

2. 「みこころ」＝原語：セレーマ、意志、意向。主の御意志。主の喜ばれる事。10節。

3. 「よく悟りなさい」＝原語：①現在形の命令形→悟り続けなさい。みこころを、その都度、事ごとに悟り続ける。②原語の意味：一緒に置く、一緒に捉え付ける、一緒に配置する。心の中で一緒に接合する、結合する、連結させる、合流する。理解する。一緒に並べる。まとめる→主のみこころを悟ることが、一瞬のことではなく、切り抜きパズルを一つ一つの出来事、状況の連結のもとで、主のみこころに到達して行く。主のみこころを、御言葉、状況、助言等を結び付け、神に祈りつつ総合的に判断する。

4. 主のみこころを悟るには。

①みことば。主のみことばは、主の御意志の現れ。i 明確なみこころの御言葉をしっかりつかみ、ii みことばに記されていない具体的な事は、みことばの原則をもとに、主の喜ばれる事を悟っていく。ですから66巻の聖書のみことばを読み味わい心に蓄える事は、主のみこころを悟る根本的な土台です。明確なみこころ→「神の命令とは、私たちが御子イエス・キリストの御名を信じ、キリストが命じられたとおりに、私たちが互いに愛し合うことです」（Iヨハネ3：23）。「神のみこころは、あなたがたが聖くなることです」（Iテサロニケ4：3）。他、聖書の一つ一つのみことばが、主のみこころを示して下さい。私的解釈をしないように、御言葉を、文脈を大切に理解する事が大切。※聖書には、具体的な導きがすべて記されて

はいない。具体的な進路、学校の選択、職業の選択、住む場所、独身か結婚か、老後のあり方、人生で大きな決断をしなければならない時に主のみこころを求める時、その時は、次に記す、複数の事を結び合せ、総合的に判断すべき。

②祈り。 i 「神よ。あなたのみこころを教えてください」と。祈り続ける私達に主は、主の方法で教えて下さる。 ii 深い主との交わり。一方通行の祈りではなく、主の前に静まる。思い切って（この決断がないとできない）何かを削り、カットして主との時間を買戻し（時間を作り、聖別して＝時を神の為に取り分け）静かに主の前に身を置く。主の前に静まる事は、私達の人生の旅路に起こる一見、バラバラに見える出来事、事柄を神の下さる綴じ糸で、つながりのあるものとして見直していく事を助ける。「悟る」の原語の意を参照。前記の「悟りなさい」の原語の意＝一緒に置く、配置する、心の中で一緒に連結させる。 iii ある時は、苦闘の祈りを通して、みこころを悟る。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。…わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにはなく、あなたのみこころのようになさってください…三度の祈りをされた」 マタイ26：38、39、44

③主にある経験によって。「堅い食物は、善（主のみこころにかなう）と悪を見分ける感覚を経験によって訓練された大人のものです」（ヘブル5：14）。主にあって経験する一つ一つ（自分の失敗も。失敗から学ぶことは多い）を通して、主は私達を訓練し、主のみこころにかなう事とそうでない事を見分ける霊的な感覚を与えて下さる。

④主の御支配の中にある私達の身に起こる一つ一つの出来事を心に納め、思い巡らし、結び付け見分ける。ルカ2：19、51。一つの出来事だけ、その一面だけで、みこころを判断しない。ある事とある事とのつながり、前後関係、そして、これまでの人生全体の中での位置、意味を御言葉と共に見分けながら、主のみこころを悟っていく。すべての出来事には意味がある。神は色々な状況を通して、みこころを示される。「雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしには地に落ちることはありません」マタイ10：29。私達の身に起こる事で偶然はない。神のご支配の中で起こる出来事には意味がある。神ではない私達人間には、すぐには、その意味が分からない事も多いが、分からない事の中でも、神を信頼して歩みましょう。

⑤神に自分を奉げ（ローマ12：1）、この世にではなく、神のみこころに自分を合わせようとする心。「この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心（原語：思い、分別）を新たにすることで、自分を変えていただきなさい（原語：変えられ続けなさい）。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるかを見分けるようになります」ローマ12：2。

⑥主にある信頼出来る人、主に心を向けさせてくれる人に相談する。「多くの助言者によって救いを得る」箴言11：14。「よく相談しなければ、計画は倒れる」15：22。良い助言者とは、支配的ではなく、助言を与えても「最終的な決断は、あなた自身が主と交わり、決めて下さい」と優しく勧める人。共に、みこころを示して下さるように祈ってくれる人。※人間の成長、自立のプロセス＝ i 助言に従う→ ii 助言を参考にする→ iii 自分で祈り決断する→ iv 自分で決断した結果が良くても悪くても、人のせいにはしない。良い結果も悪い結果も主の御支配にある事として自分で受け止め色々な経験から学び成長して行く。※大人になっても、大きな問題に出会う時、神に祈ると同時に、信頼できる人に相談する謙遜も大切。人は、他の人の相談にのる時には、客観的になれる、冷静な判断が出来易い。しかし、人は、自分の事となると主観的になり、冷静な判断が出来にくい。それ故に、お互いに相談し合い、すべてを支配しておられる神に互いに祈る事は有益である。「助けの双方向性」「共に成長する関係」を大切にしたい。

⑦主から与えられた今なすべき事をしつつ、将来の導き、主のみこころの光を一步一步、照らしていただく。

※将来の導きばかり考え、神が与えられた今日を、おろそかにするなら、神に喜ばれない。

祈り：私達に主のみこころを示して下さい。主のみこころを喜んで実行する力も与えて下さい。